

このたび JDCP study にご協力いただいている先生方とのコミュニケーションレターとして、JDCP study News を発刊することとなりました。Study の進捗状況や事務局からのお願いなどをお伝えして参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

## JDCP study によせて

研究リーダー／富山大学 副学長・病院長

小林 正

日本では糖尿病合併症に関する現状はあまり明らかになっていません。過去の疫学調査としては、JDCS、久山町研究などがありますが、糖尿病の治療法も大きく変化しつつある中で、現在の治療法の下で、合併症の発症、進展をどの程度抑えることができるかの研究が求められております。そこで、日本糖尿病学会、日本腎臓学会、日本糖尿病眼学会、日本歯周病学会の4学会では糖尿病患者の合併症の実態を探るため、「糖尿病における合併症の実態把握とその治療に関する大規模前向き研究(JDCP study)」をスタートさせました。この研究は、10,000名を超える糖尿病患者さんを5年間にわたって追跡調査するとともに、そのデータベース構築を目指すものです。欧米ではこのような臨床データが多数報告されていますが、日本では非常に少ないことから、データの集積が待ち望まれています。糖尿病合併症の実態が明らかになれば、新たな糖尿病治療ガイドラインの策定や、様々な治療法の医療経済学的な検討などにも応用されていくでしょう。



このように JDCP study は、将来の糖尿病治療を探るために不可欠な研究であることから、4学会が協力して研究に取り組むことの意義は大きく、必ずや有意義なデータが得られることを期待しています。

## JDCP study の概要

研究代表者	富山大学 副学長・病院長 小林 正
目的	糖尿病患者 10,000名のデータベースをつくり、糖尿病合併症の治療状況の実態を分析して、今後の糖尿病治療に役立てることを目的とする
研究デザイン	前向き観察研究
目標登録患者数	12,000名
参加施設	全国 378施設
対象	40歳以上 75歳未満の1型または2型糖尿病患者
観察項目	身体検査、血液検査、尿検査、心電図検査、眼科検査、神経障害の検査、歯周病の検査、問診票による調査
登録期間	2007年4月から2007年11月まで
追跡期間	最終登録から5年間(3年目に中間解析を実施)

## よくあるご質問

これまでにお寄せいただいたご質問のうち、代表的なものをお示しします。詳しくは、JDCP study ホームページ「よくある質問 Q&A」をご参照ください。

### Q1 神経障害指標の必須項目は3つとも必要ですか？

必須項目の3つは特別な事情がある場合を除き全て測定してください。

### Q2 CVR-Rは測定しておりませんがよろしいですか？

CVR-Rの測定は必須項目です。特別な事情がある場合を除き測定してください。

### Q3 歯科・眼科は他の機関に依頼してその結果を書いても宜しいですか？

問題ありません。

### Q4 症例数が増えたので追加申し込みをしたいのですが、どのような手続きが必要ですか？

「追加申し込み用紙」によりお申し込みください。お持ちでない方はこちらのホームページよりダウンロードしてください。

## JDCP study の意義

岡山大学 腎・免疫・内分泌代謝内科学 教授  
榎野 博史

糖尿病性腎症は糖尿病合併症の中でも最も重要な細小血管合併症の一つで、生命予後を左右することも多くみられます。腎症が進行して、腎不全に陥れば透析を余儀なくされます。我が国における 2006 年の 1 年間における透析導入患者は 36,373 人で、その内の 43% が糖尿病性腎症であり、透析導入の最大の原疾患です。日本腎臓学会では日本糖尿病学会と協力して進めている糖尿病性腎症合同委員会において、堺秀人先生を中心として糖尿病性腎症のデータベース構築を先行して企画しておりましたが、この度の JDCP study と合同してデータベースを構築することとなりました。糖尿病合併症に係わる多数の学会が協力することにより、腎症をはじめとする合併症の実態を明らかにでき、今後の治療のあり方の基礎的なデータとなると思われま



## JDCP study への期待

東京女子医科大学糖尿病センター眼科 教授  
北野 滋彦

15 年前の調査では、糖尿病網膜症は成人における失明の原因疾患のトップとされていました。ところが、厚生労働省難治性疾患克服研究事業 網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する研究 平成 17 年度研究報告書「わが国における視覚障害の現状」によると、視覚障害の主要原因疾患は、緑内障 20.7%、糖尿病網膜症 19.0%、網膜色素変性症 13.7% となり、糖尿病網膜症は成人失明の原因疾患のトップの座を緑内障に譲ることとなりました。この調査は、直近 1 年間の視覚障害新規認定者 2,034 名 (全国新規交付総数に対する抽出比率は 12.4%) を対象に行われたもので、前回の調査に比べて、推定障害者数が緑内障、黄斑変性症で増加し、糖尿病網膜症は微増に留まったという結果でした。しかし残念ながら、この調査は視覚障害者の届け出に基づくもので、臨床における糖尿病網膜症による視覚障害の実態を正確に把握しているとは言えません。



今回の研究では、糖尿病患者 10,000 名のデータベース構築をもとに追跡調査を行うことで、糖尿病網膜症の実態を把握し、その治療指針の資料となるデータが収集されることが期待されます。ご協力のほど何卒よろしくお願ひいたします。

## JDCP study への日本歯周病学会の取組み

日本歯周病学会前理事長/愛知学院大学歯学部部長  
野口 俊英

歯周病は歯を支える歯周組織の疾患であり、自分自身の歯を失う最大の原因です。歯周病の主たる病因は歯の表面に強固に付着した細菌の集団 (バイオフィルム) ですが、病変の進行にはその他の多くのリスクファクターが関与しています。その中でも特に糖尿病は以前より歯周病との関連が示唆されていましたが、近年になり多くの疫学研究や動物実験などの EBM に基づいた検証がなされ、米国では歯周病が糖尿病の第 6 番目の合併症と認知され始めています。今回の JDCP study に歯科界から参加させていただくことは、「歯周病と糖尿病との関連性」を追求し、国民の健康の維持に貢献することの出来るきわめて意義深いことであり、日本歯周病学会としてワーキンググループも立ち上げ最大限のエネルギーを注いでおりますので、他学会の先生方のさらなる御協力と御支援を御願ひいたします。



## 事務局より ～症例仮登録促進のお願い～

事務局長/富山大学医学部第一内科  
山崎 勝也

この度は、JDCP study へのご参加を頂き、誠にありがとうございます。本研究は糖尿病患者 10,000 症例を 5 年間追跡する研究です。途中でのドロップアウトを考えますと、開始時には、最低 12,000 例の登録が必要と考えました。皆様のご協力を得て、アンケート調査による患者登録予定数は約 12,000 例に達しておりますが、現在、仮登録用紙をお送りいただいた症例数は約 1 割程度にとどまっております。ご希望がございましたら貴施設のデータをエクセルファイルにてご返却させていただきます。先生方にはお忙しい診療の中、お手数ではございますが、目標症例数を達成できますよう、ご協力を宜しくお願ひ致します。

### データセンターからのお知らせ

JDCP study データセンターならびに Newsletter 発行を担うこととなりました株式会社シーポックでは、臨床試験から市販後の EBM 構築まで幅広い業務支援を行っています。今後ともどうぞよろしくお願ひ致します。

JDCP study に関するお問い合わせ先 : データセンター/株式会社シーポック 石井 行雄  
〒113-0033 東京都文京区本郷 3-43-16 Tel. 03-5840-9291/Fex 03-5840-9295  
E-mail otoiawase@cpoc.co.jp